



株式会社セック

Systems Engineering Consultants Co.,LTD.

<https://www.sec.co.jp/>

銘柄コード：3741

2020年3月期 第2四半期決算 説明資料

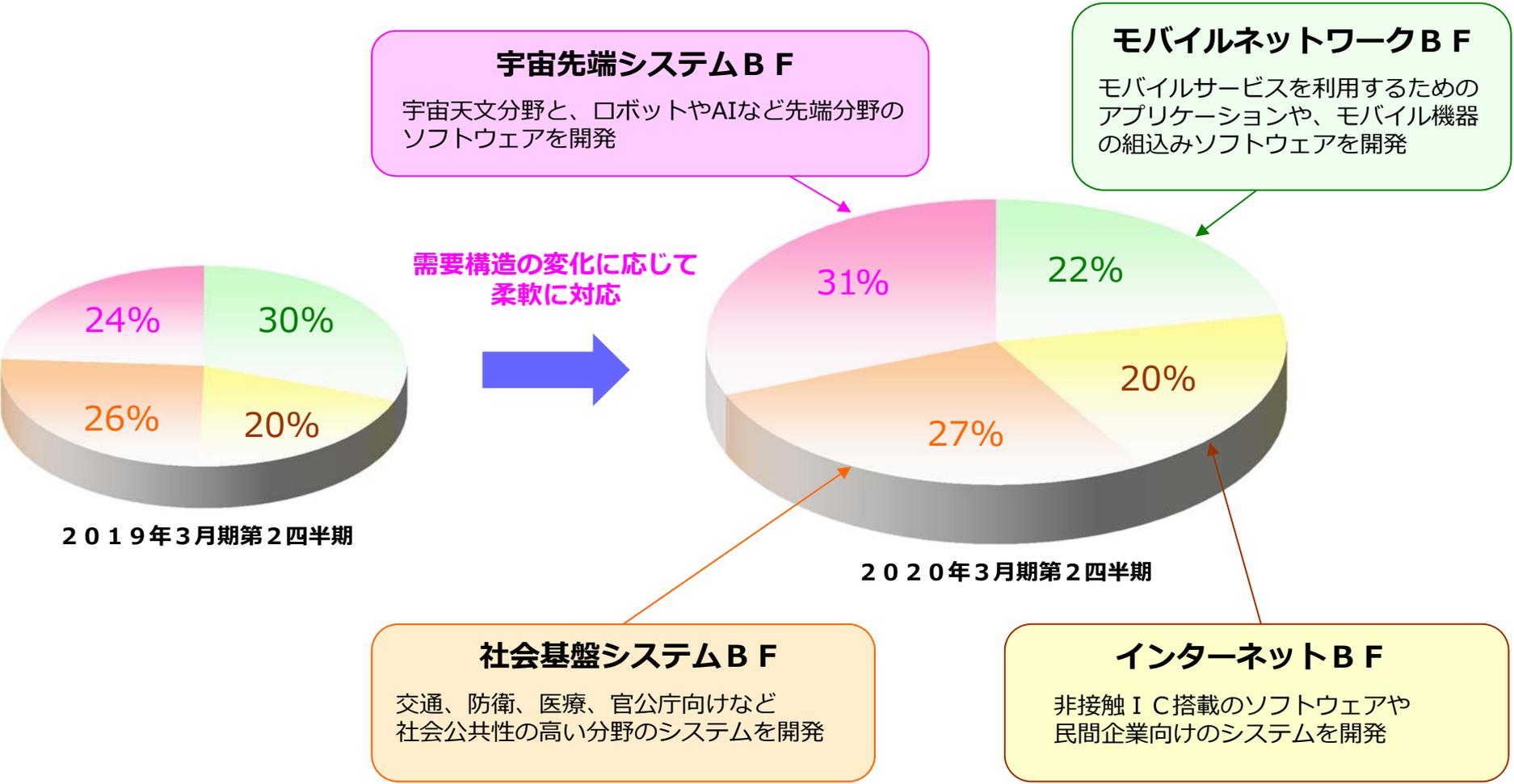
2019年11月26日

<目次>

- 事業分野
- 第2四半期決算概要
- 通期業績見通し
- 注力分野の状況 (IoT・AI・ロボット)

事業分野（BF）

リアルタイム技術が得意とする4つの分野

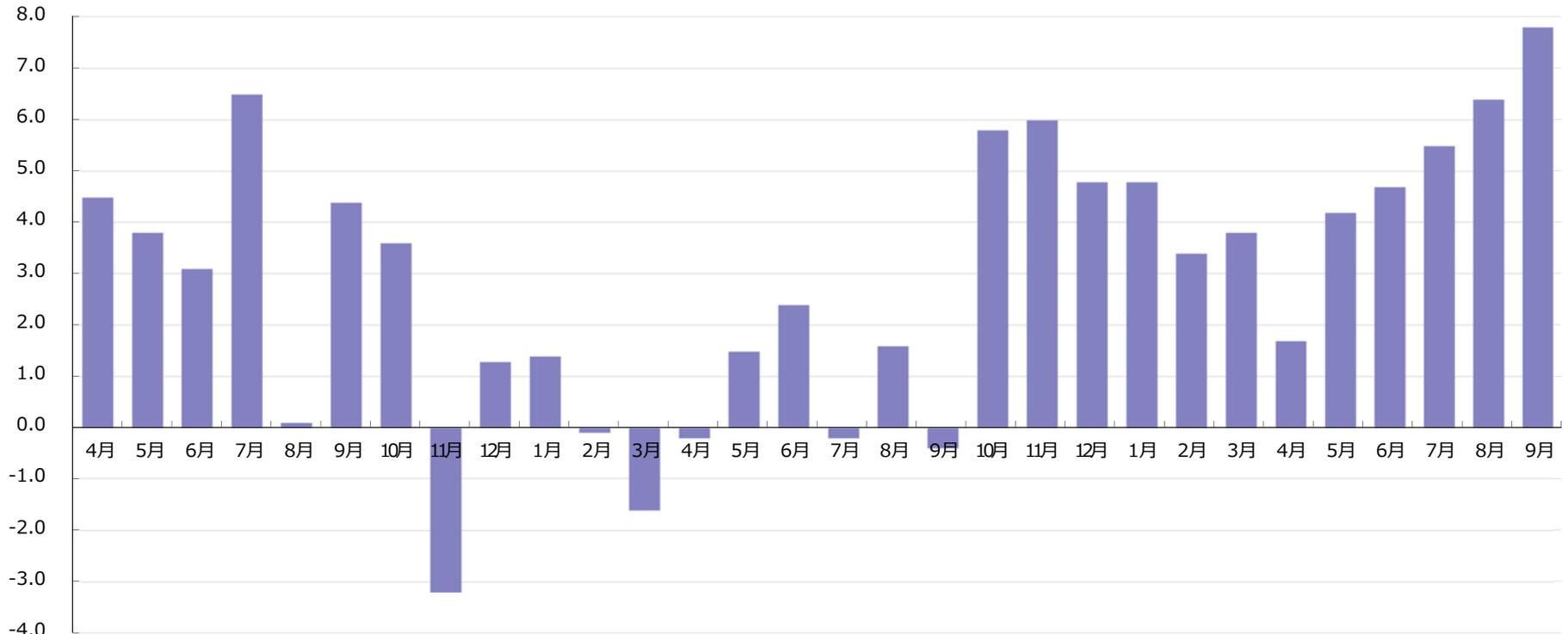


2020年3月期第2四半期 決算概要

2020年3月期第2四半期の事業環境

情報サービス業売上高前年同月比推移（経済産業省：特定サービス産業動態統計）

単位：%



2018年10月以降、12ヶ月連続で増加しており、「IT需要は全体的には概ね堅調」と推察される。

2020年3月期第2四半期総括

売上高、利益面ともに過去最高、前年同期比で3期連続の増収増益

売上高	: <u>2, 890</u> 百万円	前期比	5.4%増		
営業利益	: <u>397</u> 百万円	前期比	20.7%増	利益率	13.7%
経常利益	: <u>432</u> 百万円	前期比	20.5%増	利益率	15.0%
当期純利益	: <u>302</u> 百万円	前期比	20.3%増		

受注高、受注残高ともに過去最高、前年同期比で受注高は3期連続、受注残高は4期連続の増加

受注高	: <u>3, 388</u> 百万円	前期比	13.1%増		
受注残高	: <u>2, 539</u> 百万円	前期比	36.2%増		

先端技術を窮め、オープン・イノベーションで事業成長を目指す

- 需要構造が変化し、モバイルネットワークBFから宇宙先端システムBFへ、売上高比率トップのBFが交代
- 移動体通信事業者向けのサービス系の開発が減少
- 官公庁案件をはじめとした社会公共分野の開発案件が増加
- 車両自動走行を含めたロボットの研究開発案件や気象を中心とした宇宙天文分野の開発案件が増加

第2四半期損益計算書

	2019年3月期第2四半期 (百万円)	2020年3月期第2四半期 (百万円)	前期比 (%)	期初予想 (百万円)	計画達成率 (%)
売上高	2,743	2,890	105.4	2,800	103.2
売上原価	1,986	2,053	103.4	2,020	101.7
売上総利益	757	836	110.5	780	107.3
販売管理費	428	439	102.6	450	97.6
営業利益 (営業利益率)	329 (12.0%)	397 (13.7%)	120.7	330 (11.8%)	120.4
経常利益 (経常利益率)	358 (13.1%)	432 (15.0%)	120.5	360 (12.9%)	120.1
当期純利益	251	302	120.3	260	116.4

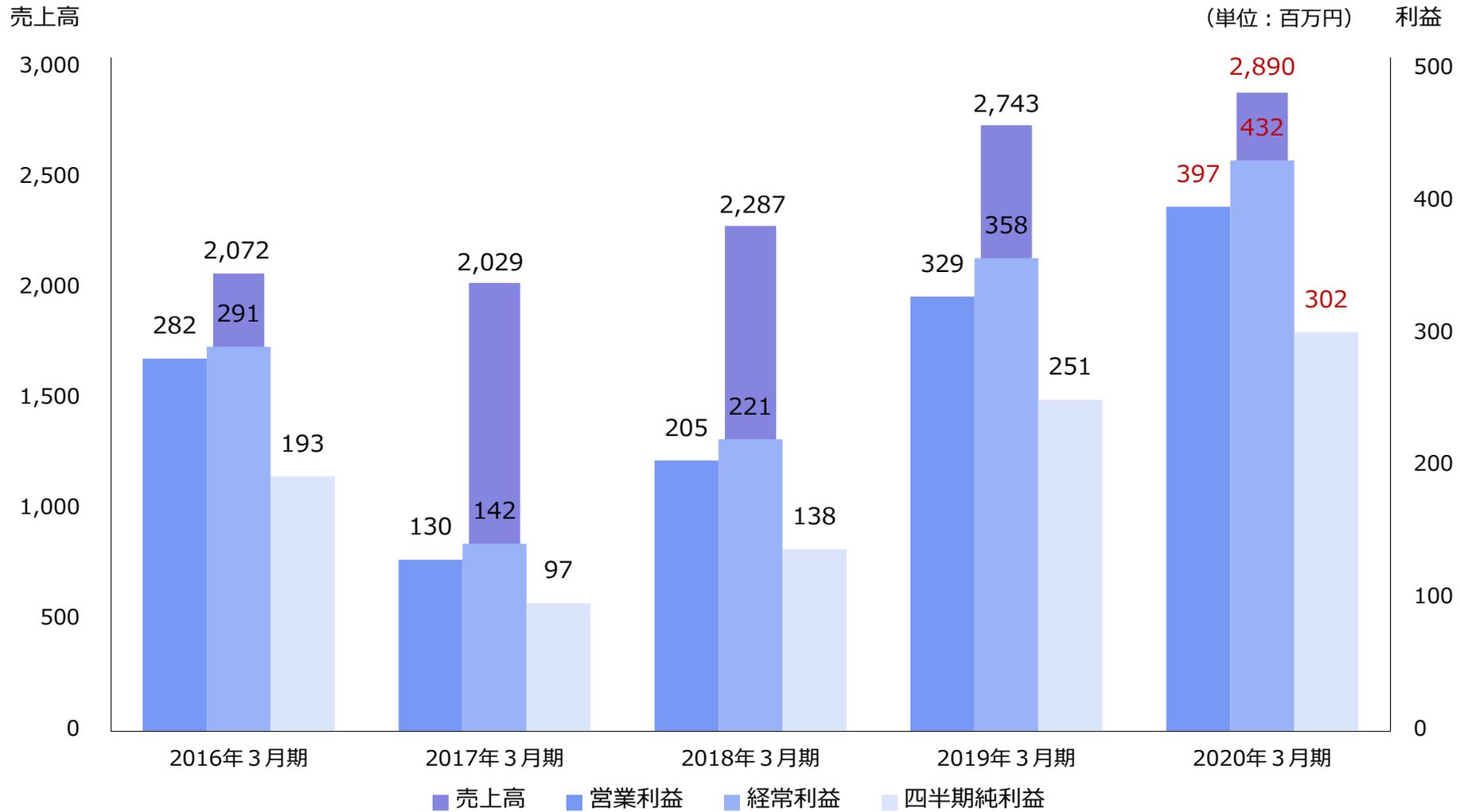
売上原価 社員数の増加とベースアップにより人件費が増加、外注費も増加
(外注費 8.9億円、前年同期比3.3%増、売上高外注比率31.0%、前期31.6%)

販売管理費 新入社員の増加などにより労務費が増加
研究開発費は41百万円で、前年同期比で10.3%減少

営業外損益 研究開発の補助金収入は11百万円（前年同期も11百万円）、受取出向料が増加

第2四半期決算業績推移（過去5年）

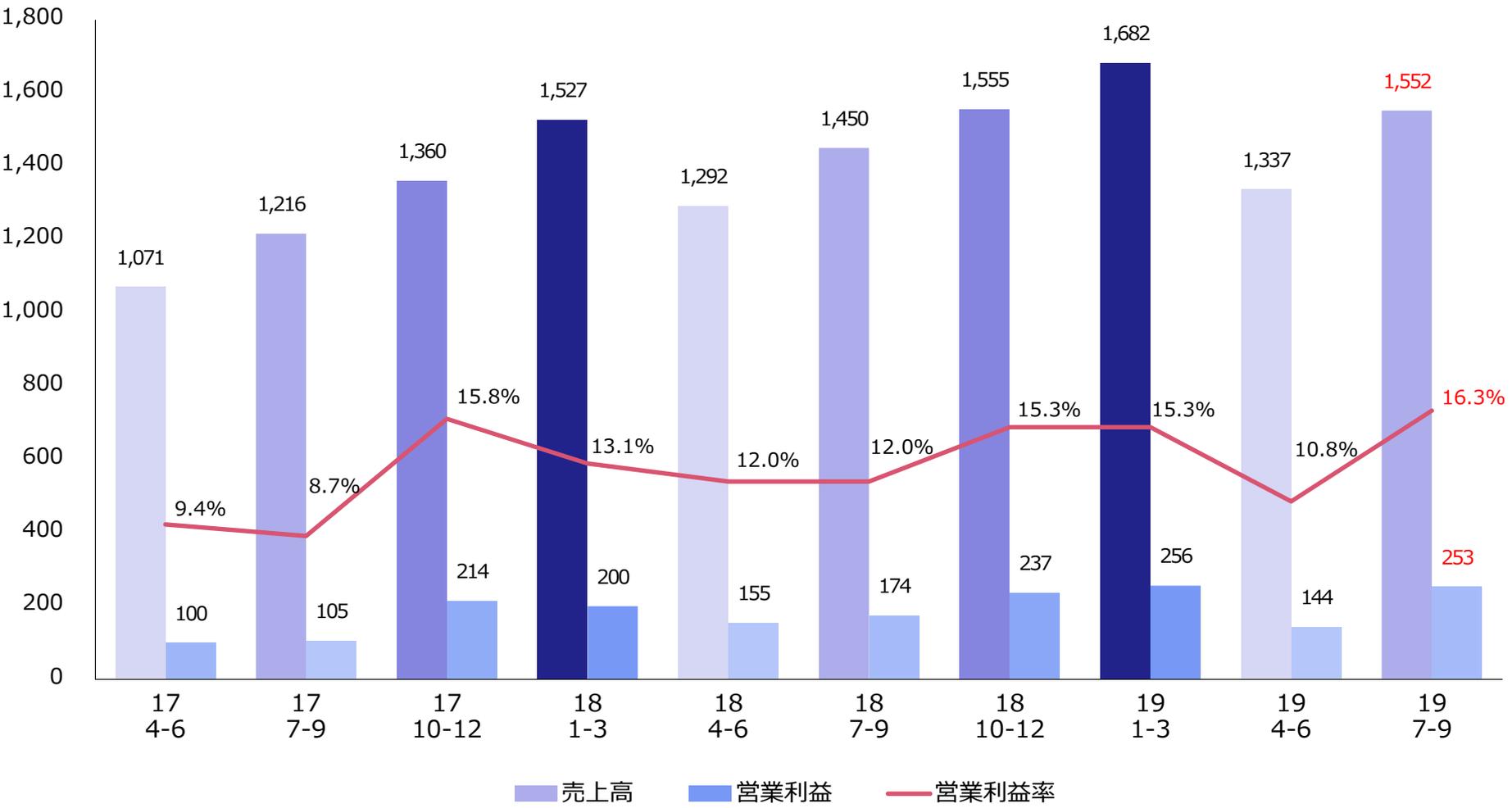
売上高、利益面ともに過去最高（対前年同四半期比較）



四半期業績推移 (PL)

8 四半期連続の増収増益のあと増収減益、再び増収増益へ (対前年同四半期比較)

(単位：百万円)

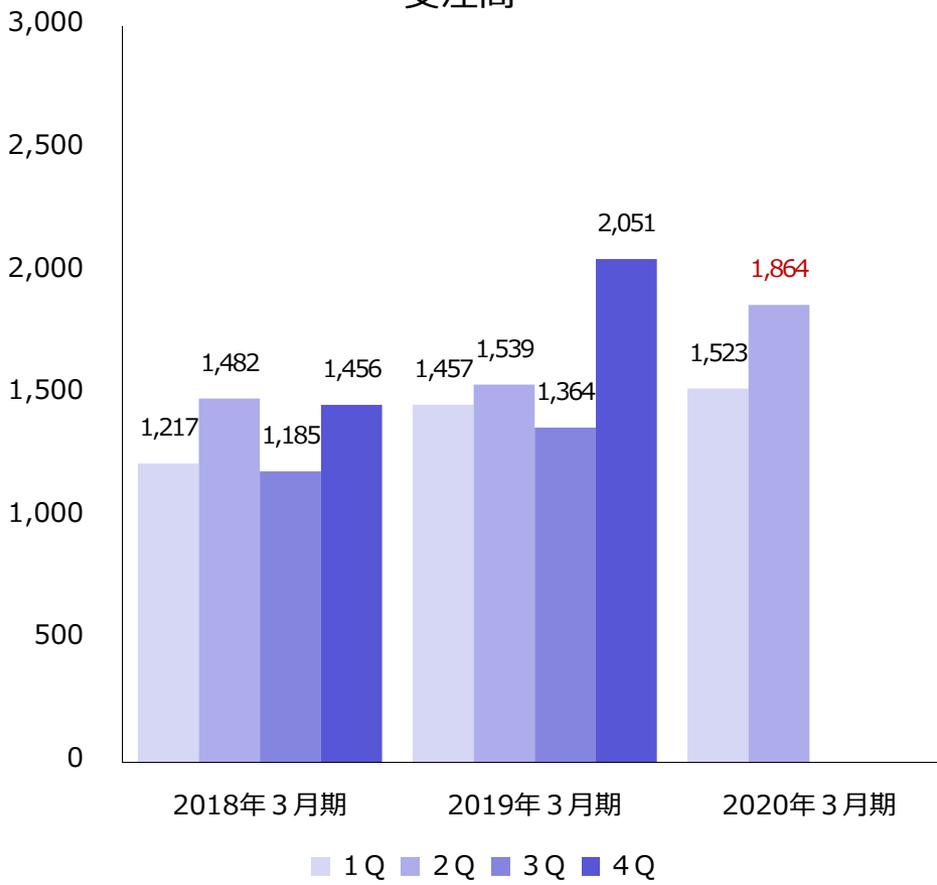


四半期業績推移（受注状況）

受注高、受注残高ともに過去最高（対前年同四半期比較）

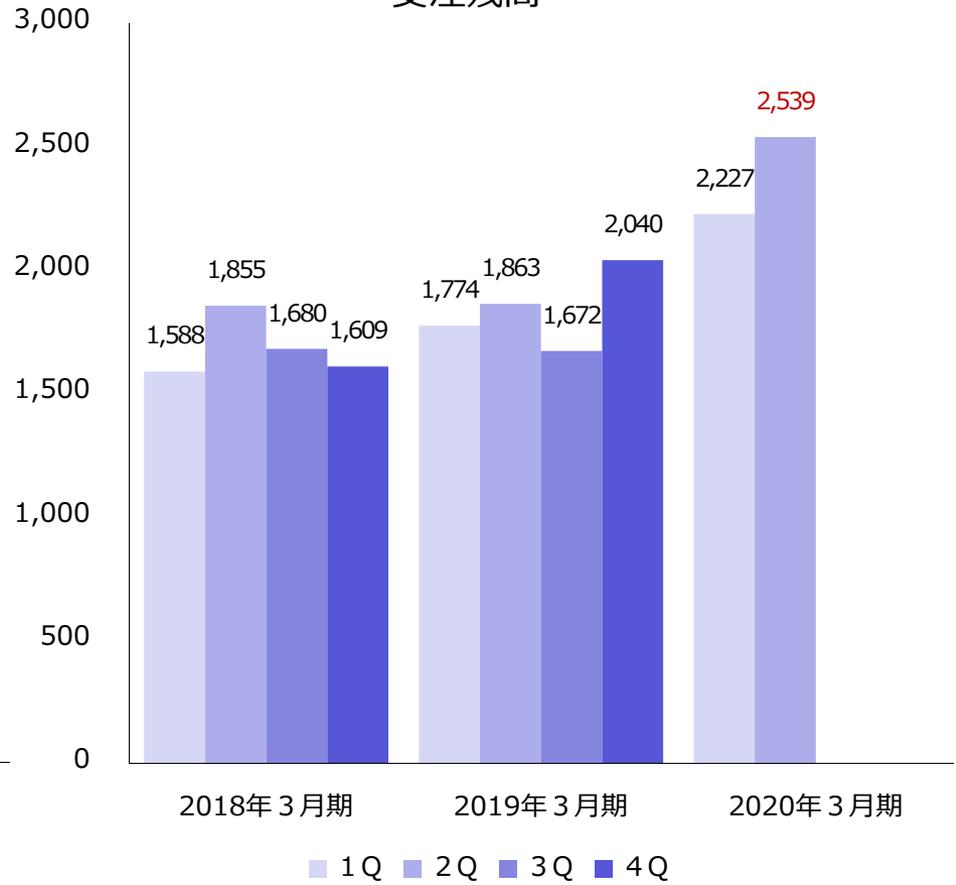
(単位：百万円)

受注高



(単位：百万円)

受注残高



第2四半期BF別の状況

宇宙先端システムBFが大幅に増加

ビジネスフィールド	2019年3月期第2四半期		2020年3月期第2四半期		
	売上高 (百万円)	構成比 (%)	売上高 (百万円)	構成比 (%)	前期比 (%)
モバイルネットワーク	836	30.5	632	21.9	75.6
インターネット	546	19.9	569	19.7	104.2
社会基盤システム	703	25.7	791	27.4	112.5
宇宙先端システム	656	23.9	896	31.0	136.7
合計	2,743	100.0	2,890	100.0	105.4

- モバイルネットワークBFは、移動体通信事業者向けのサービス系の開発が減少
- インターネットBFは、民間企業向けの複数の大型案件の開発が堅調
- 社会基盤システムBFは、医療・放送分野が減少、官公庁案件や交通系のモバイル決済関連の開発が増加
- 宇宙先端システムBFは、ロボットの研究開発案件が堅調、気象を中心とした天文分野の開発が増加

第2四半期末のB F別受注状況

宇宙先端システムB Fが大幅に増加

ビジネスフィールド	2019年3月期第2四半期		2020年3月期第2四半期			
	受注高 (百万円)	受注残高 (百万円)	受注高 (百万円)	前期比 (%)	受注残高 (百万円)	前期比 (%)
モバイルネットワーク	834	371	643	77.0	335	90.2
インターネット	609	296	635	104.2	339	114.6
社会基盤システム	812	793	881	108.5	1,179	148.6
宇宙先端システム	739	402	1,228	166.1	684	170.4
合計	2,997	1,863	3,388	113.1	2,539	136.2

(受注残高のうち、今期の売上高に貢献するのは1,984百万円、前期(1,632百万円)と比較し21.6%の増加)

- モバイルネットワークBFは、移動体通信事業者向けのサービス系の開発が減少し、受注高、受注残高ともに減少
- インターネットBFは、民間企業向けの複数の大型案件の開発が堅調で、受注高、受注残高ともに増加
- 社会基盤システムBFは、官公庁案件や交通系のモバイル決済関連の開発が増加し、受注高、受注残高ともに増加
- 宇宙先端システムBFは、ロボット案件や気象などの宇宙案件の開発が増加し、受注高、受注残高ともに大幅に増加

第2四半期末貸借対照表

(単位:百万円)

	2019年3月末日	2019年9月末日	増減
流動資産	5,304	5,327	22
固定資産	1,737	1,519	▲218
流動負債	1,126	897	▲228
固定負債	121	92	▲29
純資産	5,793	5,856	62
総資産	7,041	6,846	▲195
自己資本比率	82.3%	85.5%	3.3%
流動比率	471.1%	593.8%	122.7%
固定比率	30.0%	25.9%	▲4.0%

流動資産 現金及び預金の増加、受取手形及び売掛金の減少、有価証券の増加などによる増加

固定資産 投資有価証券の減少などによる減少

流動負債 未払法人税等、買掛金、賞与引当金の減少などによる減少

第2四半期キャッシュ・フロー計算書

(単位:百万円)

	2019年3月期 第2四半期	2020年3月期 第2四半期	増減
営業活動によるキャッシュ・フロー	534	749	214
投資活動によるキャッシュ・フロー	▲118	▲9	108
財務活動によるキャッシュ・フロー	▲235	▲244	▲9
現金及び同等物の増減額	181	494	313
現金及び同等物期末残高	2,850	3,193	343

営業キャッシュ・フロー

税引前四半期純利益の増加、売上債権の減少による収入増

投資キャッシュ・フロー

前期は投資有価証券の取得による支出があったため、前期比では支出減

財務キャッシュ・フロー

配当金支払による支出増

2020年3月期 通期業績見通し

先端技術を窮め、オープン・イノベーションで事業成長を目指す

「研究開発」「海外技術」「人材」の3つのキーワード

「研究開発」

- 研究開発を強化する。
- 大学・国の研究機関との最先端技術でのアライアンスを推進する。
- 1社完結は不可能、アライアンスを前提としたビジネスモデルを推進する。

「海外技術」

- ロボット標準化技術の海外展開と米国のハードウェアを含めた最新技術の導入など、海外とのビジネスに挑戦する。
- 米国現地法人AMSECと協調し、グローバルビジネスを加速する。

「人材」

- 社員の成長を促す働き方改革（ワークライフバランス）にトライする。
- 継続的なベースアップにより、処遇を改善する。
- 技術教育をAIを中心に強化。ディープラーニングに関する知識習得と経験を積重ねる。

2020年3月期業績見通し

業績見通しを上方修正

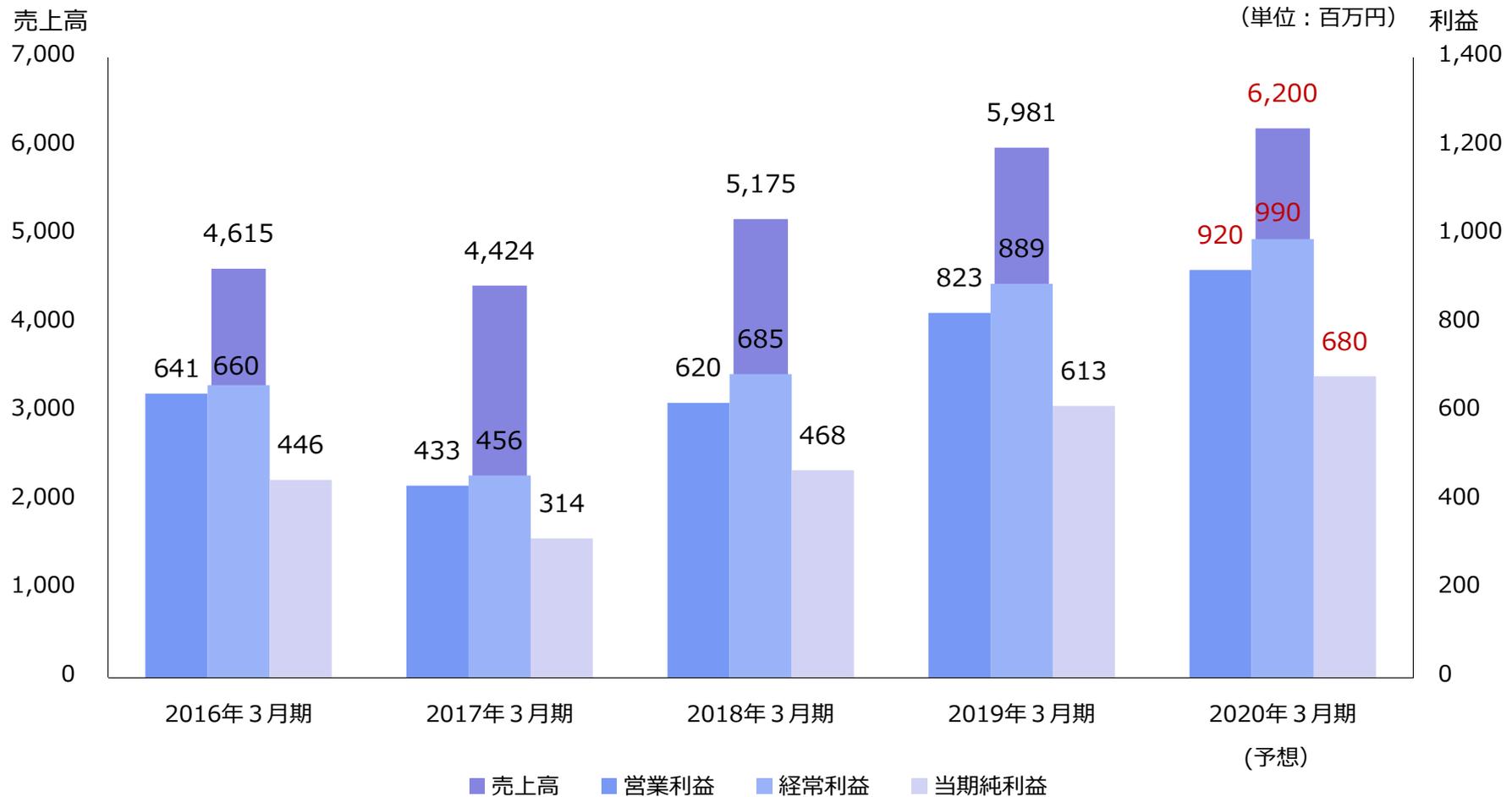
(単位:百万円)

	2019年3月期 実績	2020年3月期 業績予想	前期比 (%)
売上高	5,981	6,200	103.7
売上原価	4,310	4,420	102.5
売上総利益	1,670	1,780	106.6
販売管理費	847	860	101.5
営業利益 (営業利益率)	823 (13.8%)	920 (14.8%)	111.7
経常利益 (経常利益率)	889 (14.9%)	990 (16.0%)	111.3
当期純利益	613	680	110.8

上期は売上高及び利益が計画を上回った。下期の当社を取り巻く今後の経済情勢及び市場動向は不透明ではあるものの、売上高及び利益面は当初計画どおりに推移すると予想し、10月28日に業績予想を修正した。

通期業績の推移

3期連続の増収増益を目指す



2020年3月期B F別業績見通し

宇宙先端システムB Fが通期でも増加の見込み

ビジネスフィールド	期初の見直し	予想	第2四半期状況判断	予想
モバイルネットワーク	移動体通信事業者向けのサービス系の開発が減少傾向のため、若干の減少	➡	移動体通信事業者向けのサービス系の開発が減少し、ほぼ予想どおりの展開	➡
インターネット	非接触IC搭載ソフトウェアの開発やモバイル決済端末の開発が堅調で、前期並み	➡	民間企業向けの大型案件の開発が増加し、予想を若干上回る展開	➡
社会基盤システム	官公庁系の開発や防衛分野の商談が引続き堅調で、前期並み	➡	官公庁案件や交通系のモバイル決済関連の開発などが増加し、予想を若干上回る展開	➡
宇宙先端システム	車両自動走行の研究開発案件が引続き好調で、それにロボットの研究開発案件も増加傾向にあり、全体で増加	➡	車両自動走行を含めたロボットの研究開発案件が堅調、気象を中心とした宇宙天文分野の開発案件が増加し、予想を上回る展開	➡

注力分野の状況

(IoT・AI・ロボット)

注力分野の状況 > IoT・AI・ロボット

研究開発テーマ「ユビキタス (Ubiquitous)」 → 基盤技術はリアルタイム技術

ユビキタス
身の回りの全てのものにコンピュータを埋め込んでネットワークに接続することで、私たちの生活を安全で安心、快適なものにするという概念

↑
[基盤技術]
リアルタイム技術

ユビキタスを具現化した技術

IoT

- ロボットIoT向けコンピュータビジョン研究
- MR技術を用いた次世代可視化技術 (JAXA)

ユビキタスのキーテクノロジー

AI (人工知能)

- 機械学習を用いた運用データの解析による宇宙機の故障解析 (JAXA)
- ロボット用人工知能・機械学習プラットフォーム開発 (早稲田大学)

ロボットソフトウェア共通化技術

(2003年より研究開発をスタート)

- NEDO次世代ロボット共通基盤開発プロジェクト (2005年～2007年)
- NEDO次世代ロボット知能化技術開発プロジェクト (2007年～2011年)
- NEDO基盤ロボット技術活用型オープンイノベーション促進プロジェクト (2008年～2010年)
- 経済産業省ロボット介護機器開発・導入促進事業

ユビキタスの究極の端末

ロボット

- RTM・ROS標準化技術・米国技術調査
- ロボット自律移動研究
- 知能処理の回路化(FPGA)とロボットプラットフォームへの適用 (九州工業大学)
- NEDOロボット活用型市場化適用技術開発プロジェクト

MR (IoT)

IoTの中で、5Gの特徴を活用したMRの研究開発を推進

- 5G（超高速、超低遅延、多数同時接続）が、今後、IoTの基盤となる
⇒5Gの特徴を活かしたエッジデバイスとしてのMRに注目
- MR技術を用いた次世代可視化技術（JAXAと共同研究）
- MRのビジネス化に向け、「Microsoft Mixed Realityパートナープログラム」のパートナー認定を取得 → **HoloLens2が発売された**

→ 商談は活発化してきているが研究開発が多く、実用化の開発はまだ先

エッジコンピューティング (AI・ロボット)

AI・ロボットの中で、5Gでの端末側の技術であるFPGAの研究開発を推進

- 5G時代には、すべてのデータをクラウドの処理と連携するエッジ（端末）での処理が必要となる（エッジコンピューティング）
⇒エッジでAIなど高度な処理をするために、FPGA（プログラミング可能な半導体）が有力視されている
⇒FPGAはGPUと比較して、高負荷処理の高速化、省電力化を実現。プログラミング可能なデバイスであるため、ソフトウェアエンジニアとの親和性が高い
- 知能処理の回路化とロボットプラットフォームへの適用（九州工業大学と共同研究）

→ 技術的な壁が多いが、需要は確実にあり、ビジネスモデルを含めて準備している

ロボットビジネスの状況

実績 (2020年3月期第2四半期 売上高約608百万円
← 前年同期約514百万円 ← 前々年同期約285百万円)

車両自動走行は第2四半期で大幅に増加、サービスロボットの研究開発案件も増加し、全体で増加

- 大手自動車メーカーからの車両自動走行研究ソフトウェアなどの開発案件が大幅に増加
⇒ 車両自動走行に関連したモビリティサービスやAIなどの研究開発案件も増加
- 大手自動車、電機、機械、建築メーカーからの実用化に向けての研究開発案件が堅調
⇒ 技術的には、システムエンジニアリング、ROS・RTM（ミドルウェア）などの標準化技術、自律移動ソフト（Rtino）、コンピュータビジョンソフト（Rtrilo）などを使った受託開発が主流
⇒ 分野的には、無人搬送車、船舶、ドローン、警備、業務用掃除機など広範囲
⇒ 顧客層は拡大傾向

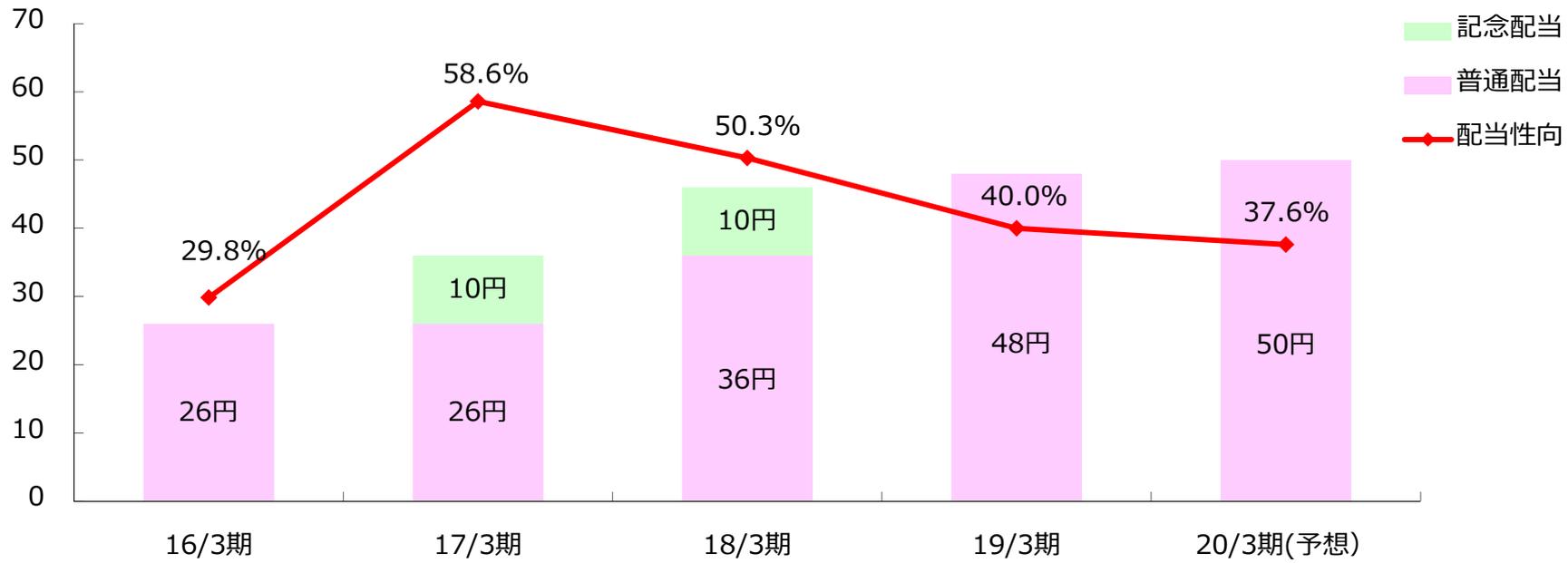
今後の方針 実用化に向けて、全方位でチャンスを見逃さない

3つの強みで展開

- ロボット標準化技術（RTミドルウェア、ROS）ビジネスの推進
⇒ 試作機の開発、製品化・実用化（ラストワンマイル）、教育、コンサルなど
- 製品適用ビジネスの推進
⇒ 自律移動ソフト(Rtino)、コンピュータビジョンソフト(Rtrilo)、機能安全ソフト(RTMsafety)など
製品+α（複数台制御、開発、教育、コンサルなど）のビジネス
- ロボット高付加価値化ビジネスの推進
⇒ ロボット+α（エンジニアリング、AI、MR、画像認識、RaaSなど）のビジネス

配当の方針

- 配当性向は当面40%を目安とする。
- 2020年3月期は1株当たり50円の配当予想とする。



※ 2016年10月1日付で、1：2の割合で株式分割を実施していますが、2016年3月期の期首に株式分割を実施したものと仮定して配当金を表示しています。
 ※ 2020年3月期の配当及び配当性向は、2019年11月11日時点での予想値です。

- この資料の目的は、当社へのご理解を深めていただくためのIR情報をご提供することであり、投資の勧誘を目的としたものではありません。投資につきましては、ご自身でご判断願います。
- この資料には、当社の現在の計画、戦略、将来の業績に関する見通しなどが記載されております。こうした記述は、当社の将来の業績を保証するものではなく、経営環境をはじめ、さまざまな外部的要因の影響等により変化しうることをご承知おきください。
- この資料の作成に際しましては、細心の注意を払っておりますが、内容につきましてはいかなる保証を行うものでもなく、この資料を使用したことによって生じたあらゆる損害などについて、当社は一切責任を負うものではありません。